

「事業成果」

第16回日本医療薬学会年会を平成18年9月30日(土)・10月1日(日)の両日、金沢市の金沢市観光会館、金沢市中央公民館、エルフ金沢、金沢21世紀美術館、石川県福祉総合研修センター、石川県社会福祉会館、MR0ホール、金沢市立新野町小学校、金沢エクセルホテル東急ならびに石川厚生年金会館で開催したところ、その出席者は5,000名を超え、一般演題も締め切り期日には1,150題に達した。また前日の9月29日には日本病院薬剤師会主催の病院薬局協議会を、9月30日には薬剤師のスキルアップのためのワークショップをおこなった。また、30日の午後の部を「医療薬学オープンレクチャー」として非会員や一般にも無料開放した。さらに、10月1日には、市民公開講座を開催し、石川県民、金沢市民へ日本医療薬学会の活動をアピールし、理解を深めてもらった。加えて、年会両日には薬科大学の教育内容などを紹介する特別パネル展示を開催した。

今回の海外からの参加者は中国から12名、韓国から40名、タイ国から1名ならびに米国から1名であった。特に、日本同様、近い将来に薬学6年制を控えている韓国からの参加者が多いのが目立った。また、招待者には、講演あるいはシンポジウムで発表していただき薬剤師業務・教育・研究等の意見交換とともに国際交流の点から大変有意義であった。

特別講演では、School of Pharmacy, University of CaliforniaのProf. Donald T. Kishi から「Hospital Pharmacy; Yesterday, Today and Tomorrow」と、金沢大学大学院医学系研究科 金子周一教授から「飽食の時代における肝臓の役割」と題して貴重なご講演をいただきました。また招待講演では Sichuan University の Prof. Li Wang から「Pharmaceutical R&D in China」と、参議院議員・藤井基之先生から「21世紀を薬剤師の世紀に！」についてお話を頂きました。

さらに、教育講演では、京都大学医学部附属病院 乾 賢一教授から「21世紀における新しい薬剤師像：Science, Art, Humanity」、厚生労働省医薬食品局総務課 関野秀人先生から「これからの薬剤師—国民からみた期待」、はばたき福祉事業団 理事長・大平勝美先生から「患者が期待する薬剤師—薬害エイズ被害の教訓から—」、日本病院薬剤師会前会長の全田 浩先生から「扉を開くのは誰」と題して、21世紀における薬剤師の在り方についてその現実と期待を熱く語って頂きました。また有限責任中間法人薬学教育協議会理事長・共立薬科大学 望月正隆学長から「薬学実務実習成功の鍵」、文部科学省高等教育局医学教育課 高見 功先生から「期待される薬学教育」と題して、薬学教育改革の6年生制実施元年にあたり、質の高い薬剤師養成による医療への貢献についてお話を頂きました。また総括して日本病院薬剤師会会長の伊賀立二先生から「変革する医療と薬剤師」と題して専門薬剤師制度や新しい薬学教育制度について解説ならびにご指摘を頂きました。

一方、シンポジウムは、16セッション企画した。薬剤業務関連(薬剤管理指導・病院機能評価・TDM・薬物療法における高齢者医療と漢方や遺伝子診断)、専門薬剤師(がん専門・感染制御専門薬剤師等)、医療現場の安全性(患者中心のバリアフリー・患者ケア・研究的薬物療法とIRB)、医療薬学教育関連(アジア薬剤師教育・6年制薬学教育と実務家教員)ならびに薬—薬連携関連など21世紀における医療薬学領域のレベル向上に繋がる内容を設定したことより、各セッションとも活発な意見討論となり意義深いものであったと察しました。しかし各会場とも予測を超える大盛況であり、入場できない程の場所もあり、事務局としては参加者に対して迷惑をかける結果となった。また本年会より現実となった医療現場での専門

薬剤師認定制度の拡充と6年制医療薬学実務実習にかかわる実務家教員の役割に関する討議は関心の高いものであった。

一般演題では、最終的に1152題の応募があった。その内、中国から6題ならびに韓国から7題の応募があった。本年会の特徴の一つとして、一般演題に一部口頭発表形式を採用し、従来のポスター発表との2形式とした。口頭発表は163題で、ポスター発表は989題であった。もう一つの特徴として、一般演題の中から特に優秀な発表に対して3種類の年会長賞を授与した。本賞の名称は「The 16th Annual Meeting Asia Travel Award」、第16回日本医療薬学会年会「優秀発表賞」ならびに「第16回日本医療薬学会年会 ベストポスター賞」とし、厳正な審査(審査員数260人)の結果、それぞれ、2、5および8名を選出した。該当者には閉会式の時に年会長より、賞状および副賞(3万円)を授与した。また、一般演題のカテゴリ分類としては、調剤業務関連(120)、薬物療法関連(267)、薬物動態関連(109)、服薬指導(125)、医薬品適正使用(170)、経腸栄養管理(33)、品質管理・製剤試験関連(49)、臨床試験(22)、有害事象・副作用(48)、薬学教育・生涯教育(94)、リスクマネジメント(64)、医療経済・薬局経営(15)、その他(36)であった。

一方、9月30日に薬剤師のレベルアップを目的にしてワークショップが開催された。「模擬患者(SP)によるコミュニケーション研修を開催してみよう!あなたもSP役に挑戦」と題して、活発な取り組みがなされた。また10月1日に「いきいきとしたシニアライフを生きるために!」と称して市民公開講座を開催した。約500名近くの参加者があり、そこでは作家の渡辺淳一氏より「充実のプラチナ世代の生き方・考え方」について、また金沢大学医学部附属病院神経内科山田正仁教授より「認知症の予防と治療—アルツハイマー病を中心に」と題してご講演を頂いた。その後、石川県病院薬剤師会と石川県薬剤師会の会員によりお薬相談会が開かれ多くの市民の方々の相談にのった。また、年会両日に特別展示「大学紹介」のコーナーに全国38校からの出展があり、薬学教育6年制のスタート年もあいまって活発な意見交換が行われた。さらに「がん疼痛緩和への薬剤師のかかわり」と題した特別パネル展示会場も盛況であった。

最後に、当初の予測以上の演題数と参加者で、会場の増設を余儀なくされ、学会参加受付ならびに機器展示を急遽、前代見聞の屋外テント会場の設定となった。台風シーズンと雨天の多い金沢ということで、準備段階から一番の心配ごとでしたが、秋晴れに恵まれ、事務局スタッフ全員が何よりホットしたところでした。

本年会のメインテーマは、平成18年度から開始された薬学教育6年制にあわせて「医療薬学の扉は開かれた」としました。臨床現場の薬剤師と薬学教員、特に、実務家教員との間で活発な意見交換が行われ、将来の薬学教育のあり方、薬剤師教育と養成を考える上で本年会は日本の医療薬学の発展に繋がったものと思います。さらに、今日の薬剤師業務の増加に伴って重くなる薬剤師の責任に関する自覚と関心の高さが5000人を越える参加者を得た最大の要因と考える。

《会費等の設定》

参加費(事前登録)	会員 8,000円	非会員 12,000円	学生 3,000円
参加費(当日登録)	会員 10,000円	非会員 14,000円	学生 3,500円
懇親会費(事前登録)	一般 8,000円		学生 6,000円
懇親会費(当日登録)	一般 10,000円		学生 8,000円
要旨集	一冊 3,000円		

市民公開講座(いきいきとしたシニアライフを生きるために！)

参加費・無料

ワークショップ(模擬患者(SP)によるコミュニケーション研修を開催してみよう！)

参加費・無料

《事業内容》

1. メインテーマ「医療薬学の扉は開かれた」—薬学教育6年制元年—
2. 年会長講演、特別講演2題、招待講演2題、教育講演7題、日本医療薬学会奨励賞受賞講演3題、シンポジウム16題、一般講演(ポスター)989題、一般演題(口頭)163題
オープンレクチャー:21世紀の医療において期待される薬剤師の役割
(9月30日の午後の部(教育講演3, 4, 5、招待講演2)を一般にも無料開放)
3. ランチョンセミナー11題、機器展示、書籍展示
4. 市民公開講座—いきいきとしたシニアライフを生きるために！—(特別講演Ⅰ「充実したプラチナ世代の生き方・考え方」、特別講演Ⅱ「認知症の予防と治療」、「おくすり相談会」石川県病院薬剤師会会員・石川県薬剤師会)
5. ワークショップ「模擬患者(SP)によるコミュニケーション研修を開催してみよう！あなたもSP役に挑戦」
6. 特別パネル展示
 - (1)「がん疼痛緩和への薬剤師へのかかわり」
がん疼痛緩和に薬剤師ももっと関わってほしい—緩和ケアにおける薬剤師の役割をパネルで理解する—
 - (2)「いやしの植物写真展」
 - (3)大学紹介(38校)
北海道医療大学薬学部、北海道薬科大学、東北薬科大学、共立薬科大学、城西大学薬学部、昭和薬科大学、東京薬科大学、東京理科大学薬学部、東邦大学薬学部、新潟薬科大学、明治薬科大学、金沢大学大学院自然科学研究科薬学系、北陸大学薬学部、岐阜薬科大学、名城大学薬学部、京都薬科大学、大阪薬科大学、神戸学院大学薬学部、神戸薬科大学、摂南大学薬学部、徳島文理大学薬学部、福岡大学薬学部、福山大学薬学部、武庫川女子大学薬学部、九州保健福祉大学薬学部、就実大学薬学部、城西国際大学薬学部、帝京大学薬学部、武蔵野大学薬学部、千葉科学大学薬学部、国際医療福祉大学薬学部、愛知学院大学薬学部、金城学院大学薬学部、同志社女子大学薬学部、広島国際大学、崇城大学薬学部、高崎健康福祉大学薬学部、長崎国際大学薬学部薬学科

参加者数(最終集計)

会 員	2,823名(事前 2,163名、事前二次 76名、当日 584名)
非会員	1,450名(事前 811名、事前二次 61名、当日 578名)
学 生	342名(事前 221名、事前二次 4名、当日 117名)
海 外	35名
有料参加者数	4,650名
招 待	329名
報 道	32名
招待者・報道を含んだ総数	4,898名
年会スタッフ(会員・学生)...	156名
総参加者数	5,167名

市民公開講座参加者数 約 500名(参加者の外数)

ワークショップ参加者数 約 130名(参加者の内数)

年会事前参加者の所属および会員、非会員の内訳

	事前登録参加者			事前登録参加者(二次)			当日登録参加者			総数		
	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生	会員	非会員	学生
病院	1,731	696	0	56	40	0	429	343	0	2,823	1,450	342
薬局	84	32	0	2	9	0	16	16	0			
大学	283	23	221	14	1	4	89	19	117			
企業	44	53	0	3	6	0	21	172	0			
その他	21	7	0	1	5	0	29	28	0			
計	2,163	811	221	76	61	4	584	578	117	2,823	1,450	342
合計	3,195			141			1,279			4,615		

その他、海外からの有料参加者 35名